

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (35)



～ 「郷土(崎枝)」に誇りを持つ児童生徒の育成 ～

崎枝小中学校 校長 嘉良 寧

「はるかに仰ぐ於茂登岳 呼べば応える屋良部岳 青い海(名蔵湾、崎枝湾)にかこまれて 清き空気の高台にそびえる我らの崎枝校」 本校は、伊波南哲作詞の校歌の一番に詠われているように風光明媚な場所に位置しています。

崎枝村は西暦1500年以前から存在する古い集落でした。しかし、明和の大津波や相次ぐマラリヤの被害などで1914年(大正3年)には廃村になっています。ピーク時には人口500名を超え、当時の様子を表した「繁盛節」は今でも歌い継がれています。戦後は、宮古島や本土、台湾そして郡内各地からの開拓移民が「食」と「土地」を求め崎枝村に入り復興しました。今年度小学校が70周年、中学校が60周年目の節目を迎えました。

さて、本校は「郷土に誇りを持つ児童生徒の育成」を目指す取り組みの一環として、総合的な学習の時間において「郷土の自然・文化・歴史に触れ理解し、地域における問題の課題解決にむけて主体的に取り組むことができる」を設定し、年間を通し活動を行っています。

昨年度は、公民館の事業「崎枝の宝物(山・川・里・海地域誌)」を作成するに当たって、屋良部半島の名所・旧跡を案内するマップ作りに全児童生徒がイラスト作成を行いました。実際に、調べてマップづくりをすることを通して、改めて郷土崎枝を見つめ直す機会を得ることができました。

また、今年度の遠足の際には、地域の方の協力をいただき、実際に半島を訪ね歩き見聞を深めました。初めて訪れる場所、普段なかなか訪れる機会のない場所もあり、崎枝の素晴らしい自然や歴史、そして文化を再発見する貴重な経験ができました。

さらに、本校では、ライオン「美らアクションプログラム」の指定を受け、環境教育に特化した海浜清掃、赤土防止のための月桃植え、シャコ貝放流等様々な活動を実践しています。なかでもシャコ貝の研究は素晴らしいものがあり、受精させたシャコ貝を1年半近く理科室の大型水槽で5cm程度まで育て、海への放流を行いました。光や汚れなどが水槽のシャコ貝の成長速度に与える影響についてまとめ、2年連続八重山地区の科学作品展において優秀賞を受賞いたしました。また、過去数年の環境教育活動が認められ、令和3年度第52回「博報賞奨励賞」を受賞することができました。このことは、本校教育活動の大きな成果であり、地域に目を向け、地域の一員としての郷土を学ぶ活動は、「勇気づけの教育」にもつながると確信しています。

他にも、本校では、「朝はボランティア活動からスタート」、「サイコーの気持ち良いあいさつ、笑顔いっぱい大好きな仲間」を合い言葉に、児童生徒・教師が笑顔あふれる学校を目指し、「師弟同行」で日々頑張っています。そして、学校の花壇は季節の花が色とりどりに咲いていますが、これは、児童生徒一人一人が栽培計画をたて、苗の選定から植え付け管理まで、主体的に取り組んで咲かせた愛情いっ



ばいの花になります。

今後も本校では、「郷土を愛し明日を拓く崎枝っ子の育成」を教育指標に、小学校6名、中学校4名の児童生徒が生まれ育った地域に誇りを持ち、地域とともに歩む学校作りを目指し日々邁進していきます。